

農家、 自著を 語る

イラストでわかる 新版 安心イネづくり

栃木・山口正篤

農文協は2020年3月に創立80周年を迎えました。数ある本の中から、農家が書いた1冊を、著者本人に紹介してもらおう連載です。

編

V V字とへの字の中間型

私は栃木県農業試験場で30年間、水稲（特にコシヒカリ）の栽培技術向上（じつくり型イネづくり）、生育診断技術、水稲育種（新品種なすひかり）などの研究をしてきました。水稲の育苗では平置き出芽法の開発・普及、「一発穂肥」専用肥料の開発、反収向上のための追肥診断、適期刈り取り診断法の普及など、現場に役立つ技術開発に力を注ぎ、2010年に農業技術功労者表彰を受けました。そんな経験から、実用的な水稲の栽培指針を本にしたと著したのが、前著『あなたにもできる 安心イネづくり』です。お陰様で全国の農家や学生さんに

5万部以上読まれました。

イネの多収技術には「V字稲作」と「への字稲作」という対照的な栽培法があります。私が勧めてきたじつくり型は両者の中間と思ってもらえればいいでしょう。穂肥をしつかりやれる点ではV字に似ていますが、初期の生育を急がずゆつくり育てるといふ点ではへの字に近い。安心して穂肥を打てるのは、元肥を少なく小苗植え（1株の植え込み本数が少ない）にしてじつくり育てるからです。

V 新規就農、定年帰農に役立つ

そして、その後の技術の発展、ビニールプール育苗法、追肥を省略した全量元肥肥料、よりきめ細かい水管理法、省力

的な雑草・病害管理法などを書き加えたのがこの『イラストでわかる 新版 安心イネづくり』です。

特長の一つは、実用的な技術と考え方を書いた点です。イネについては生理や生態、土壌科学の本がたくさん出ています。学者さんの書かれた基礎科学の本もあります。一方この本では、実際のイネづくりにすぐに役立つ、指針となる、実用的・実践的技術を紹介しています。さらに一部の技術ではなく、稲作の準備から収穫、次年への準備までのすべての技術について書いてあります。

特長の二つ目は、省力で低農業の一般的な技術を中心としていること。稲作の本には、有機栽培や超省力的な特殊な栽培



『イラストでわかる 新版 安心イネづくり』

2019年刊（税込1650円、農文協）

耕耘・代かきのちょっとしたコツ、軽い育苗箱を使った育苗、悩むことなく穂肥がやれる植え方と施肥法、倒すことなくおいしいお米をラクに1俵り増収できるイネづくり技術を、イラストたっぷり解説。

私は栃木県庁を退職後、全農とちぎの技術顧問として稲作栽培の相談にのり、講習会を行ったり、種子の生産に関わったりしました。また、受託も含めた2・7haの稲作農家でもあります。この本が、そんな退職後にがんばる稲作仲間役に立てば幸いです。（栃木県那珂川町）

培法の本もあります。そのような栽培方法を決して否定するわけではありませんが、この本ではだれでも取り組め、これから農業を志す学生や定年退職後の農業後継者のために、省力、低農薬な普通の栽培を紹介しています。普通の栽培を身につけた後に特殊な栽培法に取り組むのもよいでしょう。

特長の三つ目はイラストをたくさん用いて、親しみやすくわかりやすく解説し

V 密播・密苗は 安定多収より省力一辺倒

ている点です。文字だけではとっつきにくいとの声に応えました。これはイラストレーターのとミタ・イチローさんの力によるところで、感謝申し上げます。

前著では「具体的にわかりやすい」との声とともに積極的な多くの質問も寄せられました。それだけよく読んでくれてい

ると感謝いたしました。農業関係の学生の副読本に採用した学校もありました。今回は、密播移植技術（ヤンマーの「密苗」など）に対する私のじっくり型イネづくりから見た評価や考え方も載せています。じっくり型では薄播きで健苗を育て、小苗に植えます。それに対して密播移植では、1箱に萌芽モミで300g前後も播き、苗箱の数と育苗の労力、育苗ハウスの面積をかなり減らします。ただし、苗は徒長しやすく、育苗期間中の病害も発生しやすい。田植え時には欠株や浮き苗、流れ苗になりやすくなります。私は、安定多収よりも省力一辺倒の技術と考えていますが、読者のみなさんはどう思いますか。ご意見を聞かせてもらえればと思います。